

三年学年だより

No. 6

9月号

令和3年9月1日発行

305HR担任・副担任

もう20年近く前のことだ。東予地区の高校で3年の担任をしていた時、生徒会誌（この学校の『中央』に当たる）に担任として短い一言を書くように頼まれ、つい軽いノリで

「2013年1月2日午後6時正門集合」

とだけ書いた。当時2003年。他の先生方は「卒業おめでとう」とか、自らの座右の銘を書かれていたのに、だ。「卒業して10年経ったら、この生徒たちはどうなっているだろうか」とか「少し大人になって、色々な道に進んだ生徒たちに会ってみたいな」という思いがあって、まだ若かった私はそんな一言を残した。

2012年11月。新しい学校に勤めていた私に、あの学年の生徒から電話がかかってきた。「先生、まさかあの約束を忘れていたりしていませんか（笑）」。もちろん書いたこと自体を忘れてはいなかったが、その約束を生徒たちが覚えているはずはないだろう、と正直思っていた。「何人集まるかはわかりませんが、先生も来てくださいよ。約束の場所に、約束の時間に。」と元生徒は告げて、短い電話は終わった。

1月2日、ふたを開けると、当時のクラスの約半数が、母校の正門前で懐かしい顔を見せてくれた。正月の夕方6時だから辺りは真っ暗で、一見誰が誰だかわからない者の方が多いが、それでもその声、その笑い方で制服姿の生徒たちが思い出された。暗い中でぼやけた記念写真を撮ってから、居酒屋に場所を移し、2時間余りの同窓会を行った。自分の夢を実現させた者、当時からは想像できない夢を見つけ28歳でもなおそれに向けて走り続けている者。大都会で揉まれながらカッコいい大人になっている者、地元で大好きな祭りに命を燃やしている者。「先生、あの頃、今の俺たちの2コ上くらいだったんですか?」「え、今の私たちとあんまり変わらないってこと?」「もっともとおっさんかと思ってました（笑）」などとちょっとした悪口を言われながらも、とても幸せな時間を過ごした。みんながキラキラしているように見えて、自分自身、また頑張ろうと思えた。

昨年「〇〇は中止です」「〇〇は制限付きで行います」と言われることが多く、みんなはとても辛いだろう。私たちが思う何倍も何倍も辛いはずだ。でもその中で、みんなは、ここはみんなできちんとルールを守ろうぜ、こういうことができるんじゃないか、こういうやり方ができるぞ、と考えて行動する力を身に付けている。自分たちでは気づいていないかもしれないが。

卒業まであと半年、こういう環境の中でしっかりと成長していき、将来キラキラと輝く自分だけの人生を歩んでほしい。そのために、まさに今から始まる無観客になってしまった運動会に全員で本気で取り組もう。まさに今から本格化する受験に向け全員で全力疾走しよう。みんなならやれるはずだ。

10年後、退職間近の私は、また今のみんなから頑張ろうとする元気と勇気をもらえるような気がする。「あの頃はつまらなかったけど、その後の人生は最高ですよ」と聴けるに違いない。

(305HR 担任)

“Challenge” 松山中央高校ではよく聞く言葉です。私はこの言葉を「高みを目指す」と解釈しています。つまり、何事においても「常に上を目指す姿勢を持つ」ということです。

さて、「高みを目指す」ことを説いた名言はたくさんありますが、その中でも、今回皆さんに紹介したいのは、将棋棋士である羽生善治さんが説いた言葉です。

「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だと思っている。」

私は、才能ある33期生の皆さんが、進路実現に向けて“Challenge”し続けてくれることを期待しています。

(305HR 副担任)